

エ) 支援者に必要な知識・能力 (問 7)

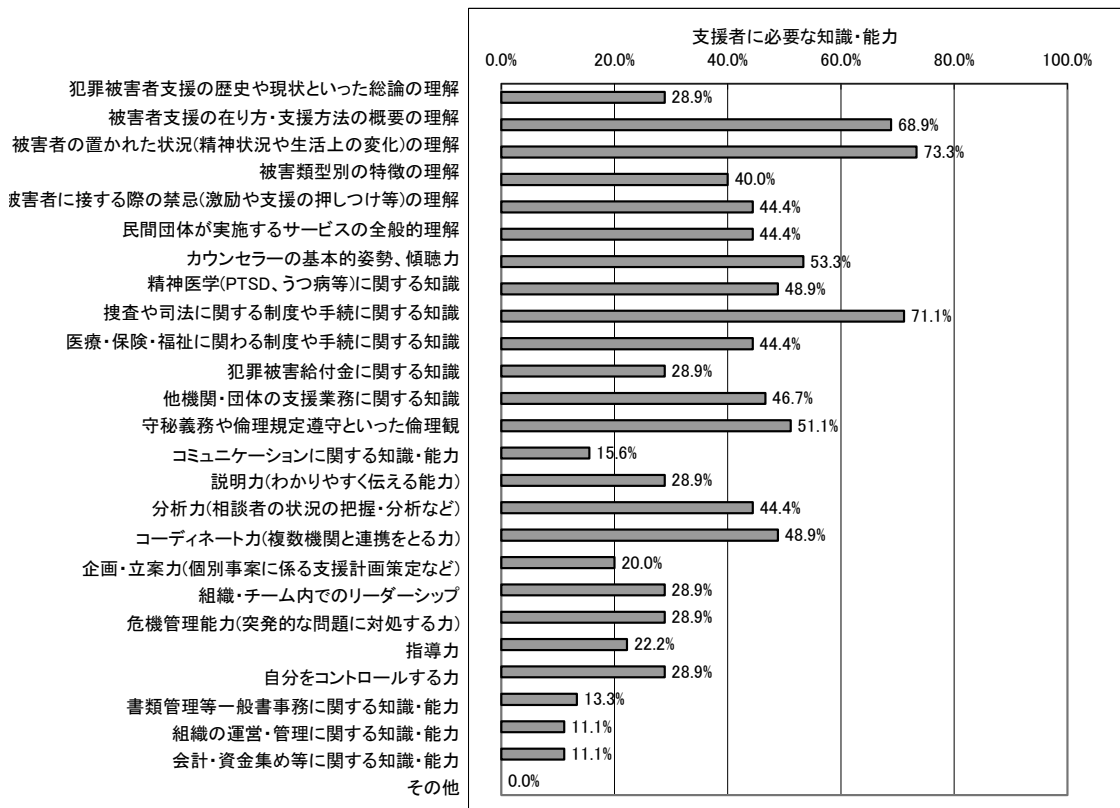
<犯罪被害全般>

支援者に求められる知識や能力として、「被害者の置かれた状況(精神状況や生活上の変化)の理解」が 33 件 (73.3%) と最も多く、次いで「捜査や司法に関する制度や手続に関する知識」が 32 件 (71.1%) と多かった。

<性暴力・DV 等>

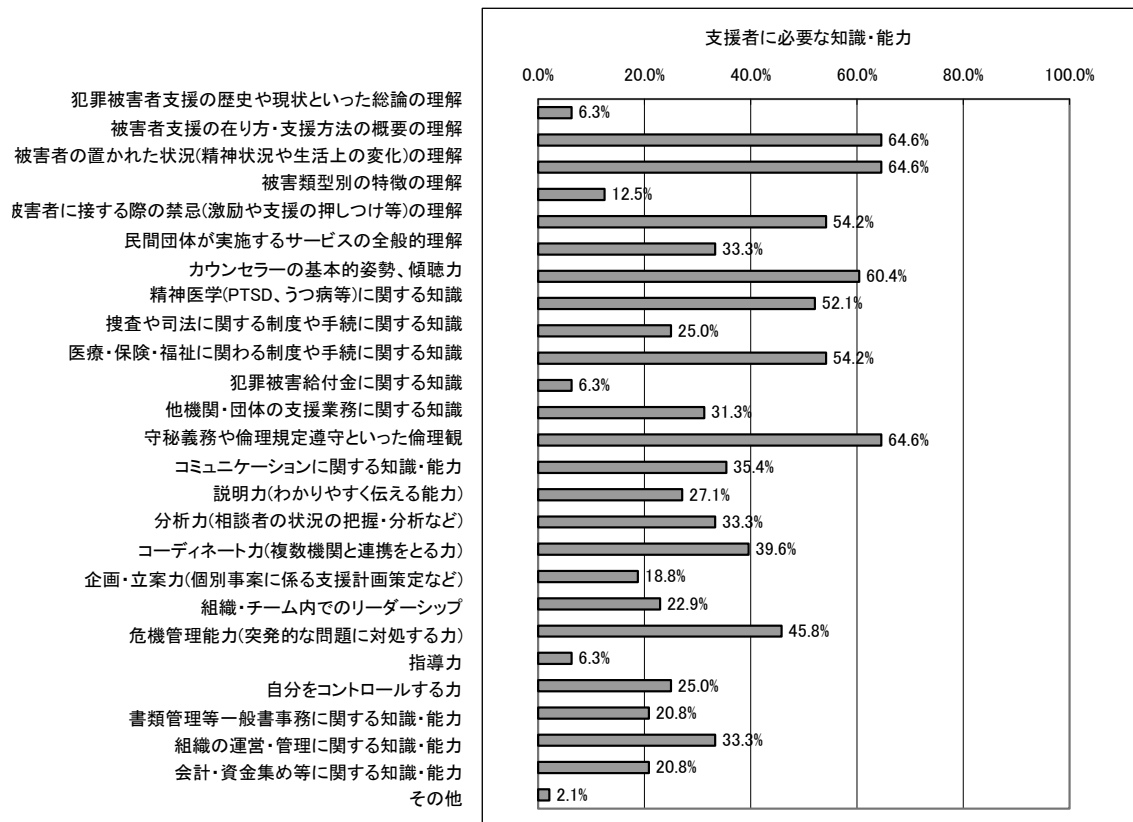
支援者に求められる知識や能力として、「被害者支援の在り方・支援方法の概要の理解」、「被害者の置かれた状況(精神状況や生活上の変化)の理解」と「守秘義務や倫理規定遵守といった倫理観」が共に 31 件 (64.6%) と最も多かった。

<犯罪被害全般>



N=45

<性暴力・DV等>



N=48

オ) 支援者の採用人数 (問8)

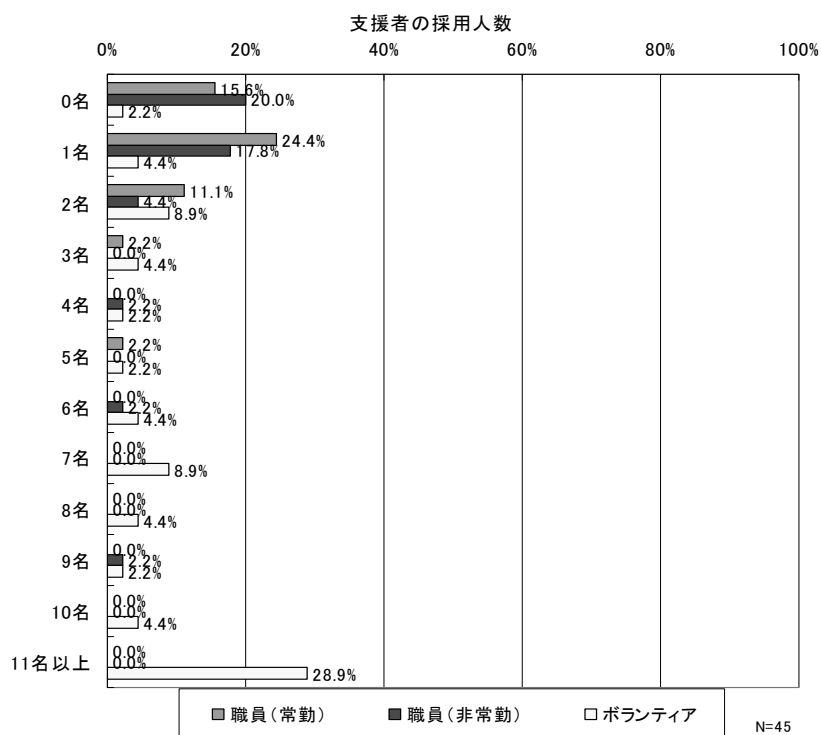
<犯罪被害全般>

平成18年度採用人数の実績は、団体別にみると、職員(常勤)の支援者は「1名」が11件(24.4%)と最も多く、次いで採用人数「0名」が7件(15.6%)となっている。職員(非常勤)の場合は、「0名」が9件(20.0%)と最も多い。ボランティアの場合は「11名以上」が13件(28.9%)と最も回答数が多い。

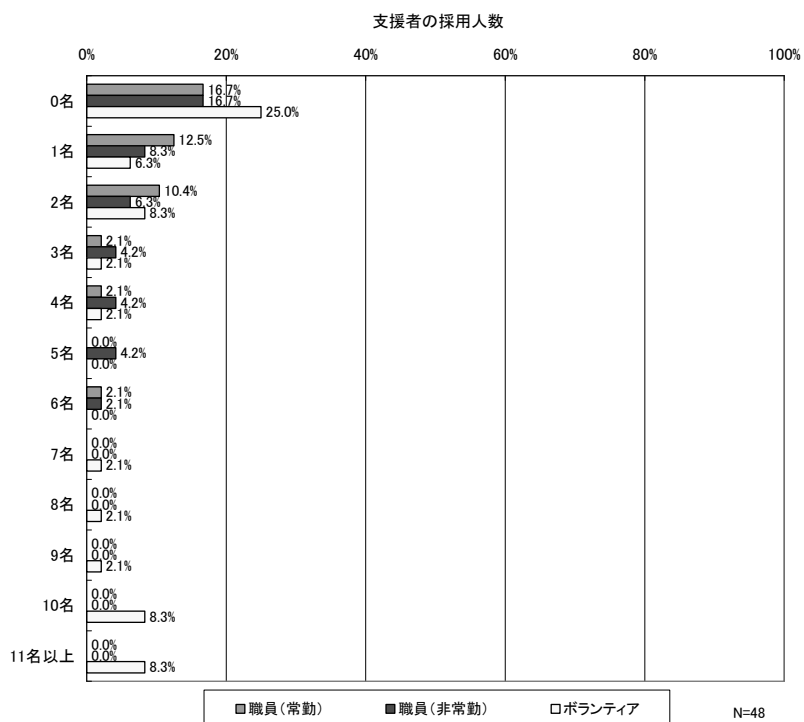
<性暴力・DV等>

平成18年度採用人数の実績は、団体別にみると、職員(常勤)の支援者は「0名」が8件(16.7%)と最も多く、次いで採用人数「1名」が6件(12.5%)となっている。職員(非常勤)の場合は、「0名」が8件(16.7%)と最も多い。ボランティアの場合は「0名」が12件(25.0%)と最も多い。

<犯罪被害全般>



<性暴力・DV等>



カ) 支援者の募集方法（問 9）

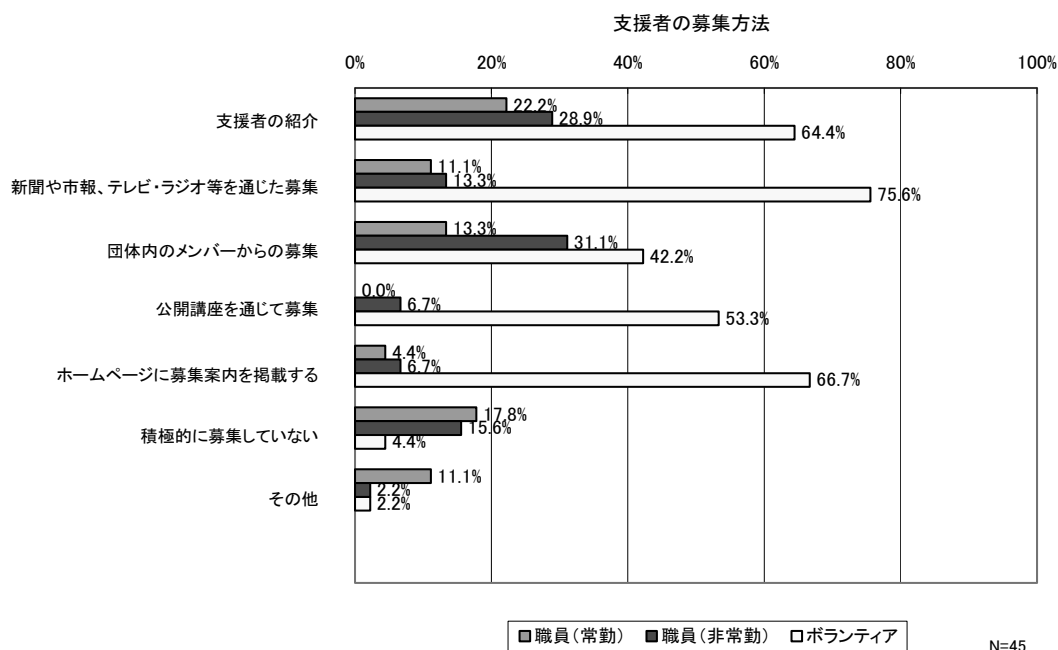
< 犯罪被害全般 >

支援者の募集方法は、職員（常勤）の場合、「支援者の紹介」の 10 件（22.2%）が最も多い。職員（非常勤）の場合は、「団体内のメンバーからの募集」の 14 件（31.1%）が最も多く、次いで「支援者の紹介」が 13 件（28.9%）となっている。ボランティアの場合は、「新聞や市報、テレビ・ラジオ等を通じた募集」が 34 件（75.6%）と最も多いが、「ホームページに募集案内を掲載する」が 30 件（66.7%）、「支援者の紹介」が 29 件（64.4%）、「公開講座を通じて募集」が 24 件（53.3%）と半数以上を超えているほか、「団体内のメンバーからの募集」が 19 件（42.2%）と続いている。

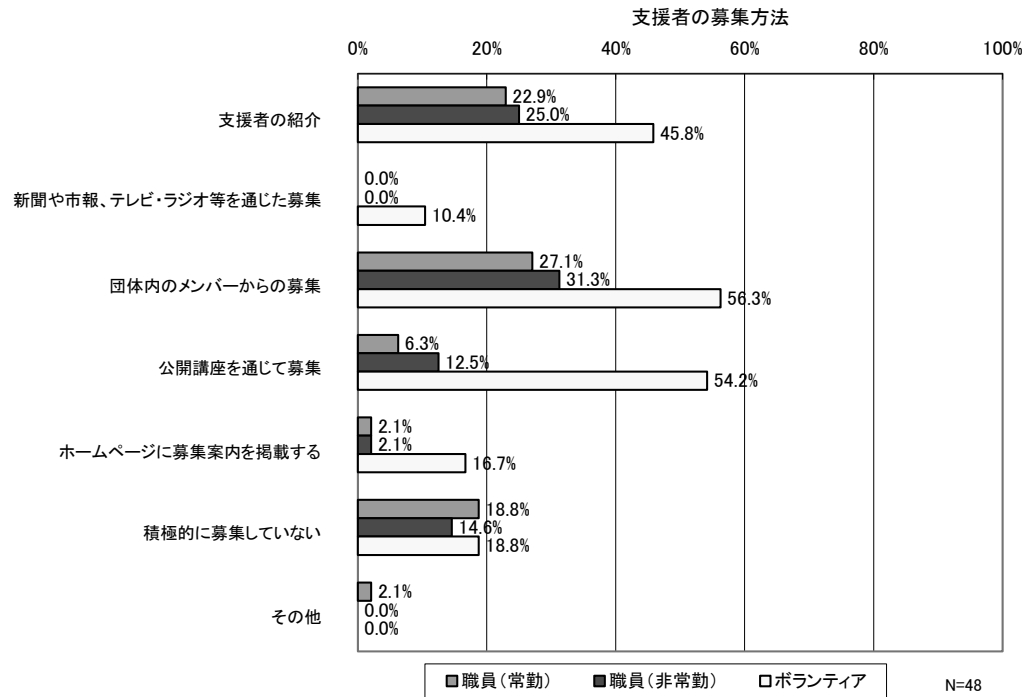
< 性暴力・DV 等 >

支援者の募集方法は、職員（常勤）の場合、「団体内のメンバーからの募集」の 13 件（27.1%）が最も多く、次いで「支援者の紹介」の 11 件（22.9%）となっている。職員（非常勤）の場合も、「団体内のメンバーからの募集」の 15 件（31.3%）が最も多く、次いで「支援者の紹介」が 12 件（25.0%）となっている。ボランティアの場合は、「団体内のメンバーからの募集」が 27 件（56.3%）と最も多いが、「公開講座を通じて募集」が 26 件（54.2%）と半数以上を超えている他、「支援者の紹介」が 22 件（45.8%）と続いている。

< 犯罪被害全般 >



<性暴力・DV等>



キ) 支援者の採用条件 (問 10)

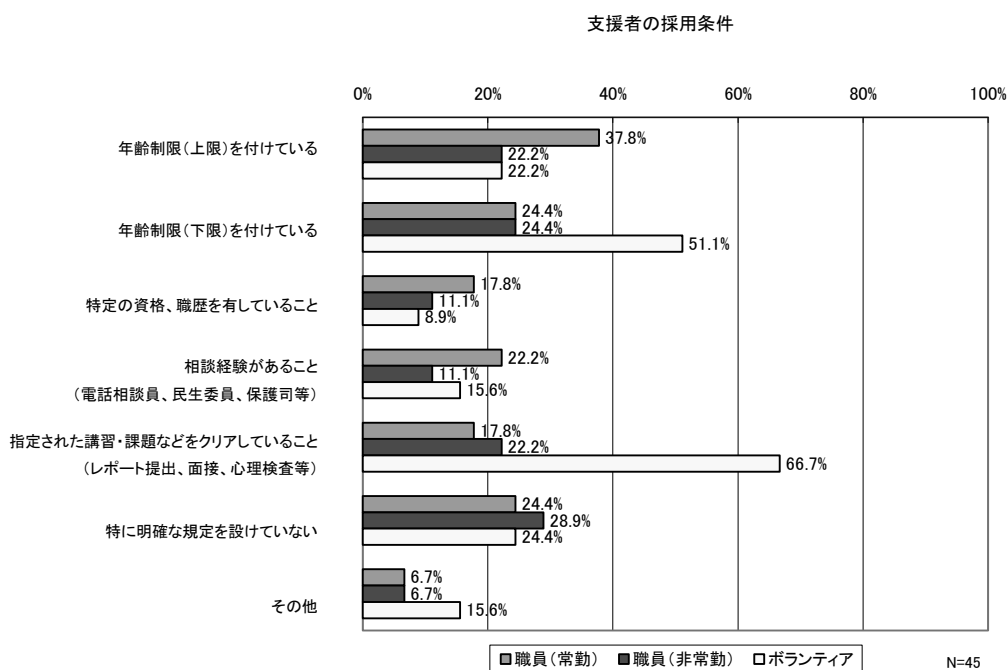
< 犯罪被害全般 >

支援者の採用条件は、職員（常勤）の場合、「年齢制限（上限）を付けている」の 17 件（37.8%）が最も多い。職員（非常勤）の場合、「特に明確な規定を設けていない」の 13 件（28.9%）が最も多い。ボランティアの場合、「指定された講習・課題などをクリアしていること（レポート提出、面接、心理検査等）」の 30 件（66.7%）が最も多い。

< 性暴力・DV 等 >

支援者の採用条件は、職員（常勤）の場合、「特に明確な規定を設けていない」の 9 件（18.8%）が最も多い。職員（非常勤）の場合、「指定された講習・課題などをクリアしていること（レポート提出、面接、心理検査等）」の 9 件（18.8%）が最も多い。ボランティアの場合、「特に明確な規定を設けていない」の 14 件（29.2%）が最も多い。

< 犯罪被害全般 >



<性暴力・DV等>

